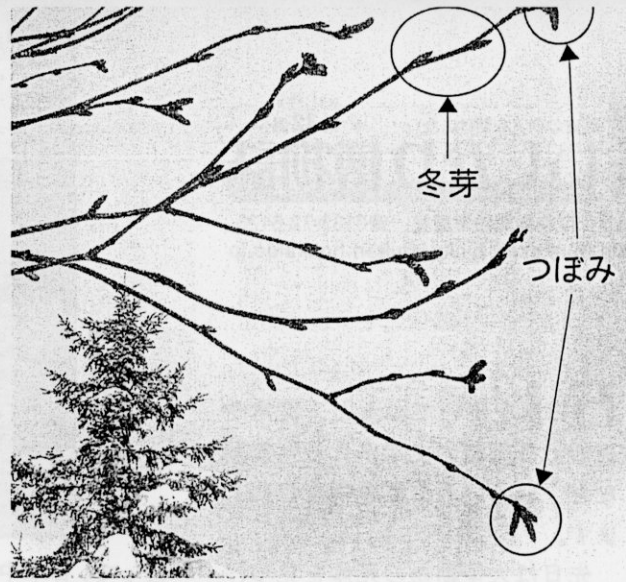
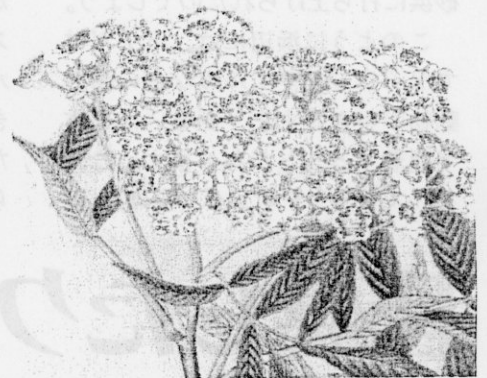




ダケカンバ(カバノキ科)の冬芽とつぼみ

春を待つ木々の花



① ナナカマド (バラ科)

開花時期 6月上旬
暖かくなってから花を開く。
きれいな花を咲かせてたくさん集まってきた虫たちに花粉を運んでもらう。

このように葉より先に花を咲かせるタイプには、他にヤナギ科の仲間があります。一見、つぼみを含む冬芽の形は他と同じですが、春が近くなると、大ぶりになってくるので区別できます。早いものはまだ雪のあるうちから、芽の中から綿毛をのぞかせていることもあります。

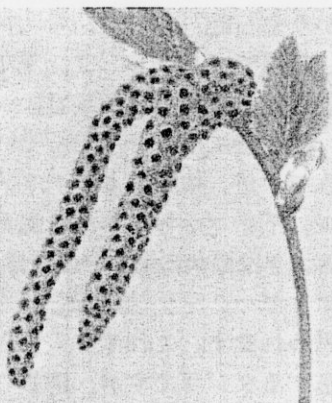
染め、虫たちに花粉を運んでもらうものもあります。
「春一番に咲くこと」には、冬の眠りから目覚めたばかりの虫たちを独り占めにできる、という大きなメリット(有利さ)があるとされています。木々たちも作戦を練っているようです。

皆さんも、身近に早春の木の花を探してみてはいかがでしょう。

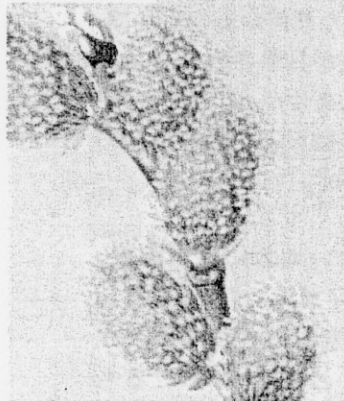
(石狩海浜植物保護センター 前野華子)

冬芽の中から探してみよう

◆イラスト(①②③)
北海道樹木図譜(北海道大学図書刊行会)より引用



② シラカバ (カバノキ科)
開花時期 4月～5月上旬
葉が開く前に花を咲かせ、風を使って花粉を遠くまで飛ばす。



③ バッコヤナギ (ヤナギ科)

開花時期 4月
まだ寒いうちに花を咲かせる。
ほかに花がないので目覚めた虫たちを独り占めできる。

北国の春の足音がかすかに聞こえ始める季節になりました。木々の枝先に点々と付く「冬芽」をよく見てみましょう。木の種類によって、とがっているもの、丸いもの、黒いもの、赤いものなど形や色はさまざまです。この冬芽を割ってみると、まだ小さいけれどちゃんと葉の形をした「葉っぱの赤ちゃん」を見ることが出来ます。

さて、この冬芽のすべてに葉っぱの赤ちゃんが入っているわけではありません。同じ木の中にも、少し違った形(丸みを帯びている、ほかのものより大ぶり、など)の冬芽が混じっている木があります。この形の違う冬芽の中には、花のつぼみが入っているのです。

また、細長い棒のようなものがぶら下がるように付いている木を見ることがあります。これは、つぼみがむきだしの状態になっているもので、シラカバやハンノキなど、カバノキ科の仲間で見られます。

花と言うと、花びらがあって色鮮やかなものを想像しますが、シラカバなどの花は、逆に地味なものです。花粉を風に運んでもらうため、虫を引きつける華やかさは必要ありません。その代わり、花粉が風に乗って遠くに飛ぶように、木々の葉で邪魔されない、葉が開く前の早春に花開くのだと言われています。